

大学や短大, 高等専門学校に 2011 年 5 月時点で在籍する学生のうち心身に障害のある人は 1 万 236 人で, 調査を始めた 05 年の約 2 倍となったことが 2 月 14 日, 日本学生支援機構のまとめで分かった。

支援機構は「学校による実態把握が進んだ」と分析。手話通訳などで授業内容を伝える支援をする学校が増え, 通いやすくなったことも背景にあるとしている。

調査対象の国公立 1,206 校全部が回答した。障害者手帳などを取得した学生のほか, 健康診断で障害があると学校が判断した人を集計。障害者がいる

学校は 67% に上った。

内訳は「肢体不自由」が最多で 2,491 人。「病弱・虚弱」2,047 人, 「聴覚・言語障害」1,556 人。医師が「発達障害」と診断しているのは 1,453 人で, 精神障害を含む「その他」が 1,838 人だった。

授業内容を要約して伝える「ノートテイク」や点訳などの支援をしているのは 52% の 625 校。05 年調査の 206 校 (21%) から大幅に増えた。

05 年は 1,001 校が答え, 障害のある学生は 5,444 人だった。

(日本経済新聞・東京 2012 年 2 月 15 日)